

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

令和6年3月

創価大学教育学部

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	10
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	13
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	13
V	現況基礎データ一覧	14

* 3 頁以下の頁数は実際に応じて記入してください。

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：創価大学 教育学部
- (2) 所在地：東京都八王子市丹木町 1-236
- (3) 学生数及び教員数

(令和5年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修550名／学部全体737名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）27名／学部全体33名

2 特色

本学では、教職課程の運営について全学的な組織として「教職キャリアセンター」を設置している。センターは学長の直属機関として教職課程全般について担っている。センターには学長が任命した「センター長」及び「副センター長」を配置。さらに専門の事務職員を3名配置し、学生に対しては各種ガイダンス及び履修指導等をおこない、また全学（学部・大学院）の教職課程を統括し、文科省等への各種報告や課程認定申請（課程の変更申請含む）等も担っている。

教職キャリアセンターのセンター長・副センター長は、教育学部及び教職研究科の専任教員でかつ教職課程カリキュラムを検討する中心者が担っている。教育学部では研究者教員と実務家教員をバランスよく採用しており、研究者教員と実務家教員の協働体制が構築されている。そして教職課程について精通している専任職員を配置し、教員と職員の協働体制も構築できている。全学教職課程の中心的な役割を担っているのが教育学部であり、教員養成における様々な取り組みを先駆的に実施し、他の教職課程設置学部へ波及させている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

創立者・池田大作は全学に対して、建学の精神「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」「人類の平和を守るフォートレス(要塞)たれ」、及び、「英知を磨くは何のため 君よ それを忘るるな」「労苦と使命の中にのみ 人生の価値(たから)は生まれる」との指針を示している。また、教職大学院に対しては、「子どもの幸福を目指す慈愛の教育者たれ!」「生命の尊厳を護り抜く正義の教育者たれ!」「平和の世界を創造しゆく英知の教育者たれ!」との指針を示している。これらの精神や指針は、大学 HP やキャンパスガイド、各種資料など、学内の様々な場面で教職員や学生に周知されている。

さらに、教育学部や教職大学院ではこれらの精神・指針を基盤としたディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーが掲げられ、教員養成についての目的や目標を明示している。

また、毎年、教職課程ガイドを発行するとともに、今年度からは、教育学部棟の入り口に目的・目標をデジタルサイネージで提示し、共通認識の深化を図っている。

〔優れた取組〕

- ・幼稚園課程では、教職キャリアセンター所属の教員とゼミ指導教員が同席して学生と懇談し、公立幼稚園・私立幼稚園を目指す学生に対する校種に合わせた指導の役割分担を明確にすることで共通理解を図っている。

〔改善の方向性・課題〕

建学の精神や指針は共有されているものの、教職課程において育成を目指す教師像が不明確である。そこで、昨今の社会情勢や教育界の動向を踏まえつつ、本学の

建学の精神や指針を踏まえ、教師像の案として「子どもの未来に対して責任を持つ教師」「子どもの自律的・協働的に学ぶ力を育てる教師」「子どもを心から慈しみ、励ます教師」を検討している。今年度中に策定した上で、来年度から、教員・学生に周知する。

また、教員養成に関する理解が不十分な教員が散見される。そこで、理解を深めるために、教職キャリアセンターの主催による FD を教授会等に併せて実施することを検討している。

<根拠となる資料・データ等>

データ

- ・ 1-1-1 : 創価大学 HP「建学の精神」 <https://www.soka.ac.jp/about/intro/spirit/>
- ・ 1-1-2 : 創価大学 HP「建学の精神」 <https://www.soka.ac.jp/about/intro/spirit/>
- ・ 1-1-3 : 教育学部 HP「理念と目標」 <https://www.soka.ac.jp/education/about/policy/>
- ・ 1-1-4 : 教職大学院 HP「教職大学 指針」 <https://www.soka.ac.jp/grad-edu/about/info/>、教職大学院 HP「教育研究上の目的と基本ポリシー」 <https://www.soka.ac.jp/grad-edu/about/policy/>
- ・ 1-1-5 : 教職キャリアセンターHP <https://www.soka.ac.jp/educareer/>

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

教職キャリアセンターのセンター長として教職大学院の専任教員 1 名が、副センター長として教育学部の専任教員 3 名が、さらに、指導講師として校長・園長経験者 8 名が教職課程の運営に参加し、学生を多様な観点から指導できるように工夫している。

教職課程に登録している学生の、個別面談での相談内容や各種対策講座の参加状況を可視化、共有し、各学生の状況や全体の動向を組織として把握できるように DX 化を進めている。

〔優れた取組〕

- ・教職特別講座や保育者養成対策講座を定期的を開催している。また、それらの講座では、卒業生などの現職の教員や保育者を外部講師として招聘し、実践的で時代に合った知識や見識を学生が学ぶことができるように工夫している。
- ・学生情報管理の DX 化により、学生の個別面談での相談内容や各種対策講座の参加状況が電子カルテ化され、教職キャリアセンターのスタッフ間で共有されている。

〔改善の方向性・課題〕

近年、入学する学生の学修に対する姿勢が加速度的に変化しており、柔軟に対応する必要があることが大きな課題となっている。そこで今年度より、学生の意識の変化を捉えつつ、1 年次の「教職概論」や 4 年次の「教職実践演習」における教育の内容、方法の改善を進めている。具体的には、学生の教師としての実践的指導力を高めるために、オムニバスで授業を運営し、各教員の長所を活かしながら、教師に必要な知識・スキルを修得できるように工夫している。

また、教師・保育者として持つべき、幼児観、児童観、教育観、保育観、学習観、授業観について、これまで明確に示していなかったことに加え、学生の認識も変化している。そこで、上記の取り組みの中で、繰り返し提示して共通認識を形成する

ようにしている。

<根拠となる資料・データ等>

データ

- ・ 1 - 2 - 1 : 創価大学 HP 「シラバス」 <https://www.soka.ac.jp/department/syllabus/search> から「教職概論」を検索

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

本学が発行するキャンパスガイドにおける教育学部のページや、教育学部、教職大学院、教職キャリアセンターのホームページで、教職課程を通してどのような教師を養成しようとしているのか、学生がどのように育っているのか、情報を発信している。

年間で4回（計6日）開催されるオープンキャンパスで、教職に関わる体験授業やイベントを実施し、本学部の教職課程の魅力や期待する学生像を伝えるように努めている。

〔優れた取組〕

- ・オープンキャンパスにおいて高校生を対象とした教科教育や保育内容に関する体験授業を実施している。
- ・オープンキャンパスにおいて「幼児教育・保育カフェ」を開催し、高校1年生の段階から気軽に進路相談ができる機会を提供している。

〔改善の方向性・課題〕

教員養成における他大学との違い、及び、本学の特徴をより明らかに発信する必要がある。特に、養成を目指す教師像を明確に提示すること、本学の教員養成課程における学びのイメージをわかりやすく示すことが重要である。そこで、3月に実施される今年度最後のオープンキャンパスでは、本学を卒業した現職の小学校教員を招いて、学生時代における学びの経験や教師像について具体的に説明する場を設ける予定である。

<根拠となる資料・データ等>

データ

- ・資料 2-1-1 : 創価大学キャンパスガイド 2024, pp.44-49, <https://www.sok>

[a.ac.jp/assets/static/special/campus_guide/2024/CAMPUS_GUIDE_2024/index.html](https://www.soka.ac.jp/assets/static/special/campus_guide/2024/CAMPUS_GUIDE_2024/index.html)

- 2－1－2：教育学部 HP <https://www.soka.ac.jp/education/>
- 2－1－3：教職キャリアセンターHP <https://www.soka.ac.jp/educareer/>

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

学部の授業において、キャリアに関する内容も扱っている。「教職概論」では、教師の職務について扱っている。「学校研究」では学校で起こりえる事象についてケースメソッドや授業動画の観察・分析を通して、教師の仕事の実際に触れている。

「教育とキャリア」では、を開講し、自身が受けてきたキャリア教育を振り返りつつ、教師としてのキャリア教育の在り方について学ぶと共に、自身のキャリア選択について内省的に考える場を提供している。

教職キャリアセンターでは、指導講師を中心に個人面談の場を設け、教職に対する学生の悩みや採用試験に対する心構えなど、学生が気軽に相談できる態勢を整えている。さらに、教員採用試験に向けた取り組みとして、筆記試験や面接、集団討論、論作文など様々な対策講座を開いて、現場に即した知識・スキルを修得できる場を提供している。

〔優れた取組〕

- ・ 講義に現職教員を招いて理論と実践の往還の重要性を学ぶ場を提供
- ・ 講義や課外における、現職保育者による指導案の添削や模擬保育の評価
- ・ 1年次対象の「初年次セミナー」で「キャリアデザインマップ」を配布・説明

〔改善の方向性・課題〕

昨今、1年目から病休・退職する新任教員が増えており、着任前の指導の必要性が増している。そこで今年度は1月から3月にかけて、専任教員による着任直前対策「実務講座」や現職教員を招いての「教職スタートダッシュ講座」を開催し、着任直後の自己申告書や学級・教科経営案の作成、学級開きのための準備が円滑になるように支援する。

教職の学びを促進する資料の増強、教職課程の学生のための自習スペースの増加など、相談室のさらなる環境整備を検討している。

<根拠となる資料・データ等>

データ

- ・ 2-2-1 : 創価大学 HP 「シラバス」 <https://www.soka.ac.jp/department/syllabus/search> から「教職概論」「学校研究」「教育とキャリア」を検索

資料

- ・ 2-2-2 : 現職保育者による指導案の添削の例
- ・ 2-2-3 : キャリアデザインマップ

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

小学校、及び、幼稚園の課程については、大学全体のカリキュラム改定の時期に合わせて、積極的にカリキュラムの改善を進めている。

〔優れた取組〕

最新のカリキュラムでは、実践的な学習指導力を高めるための「授業技術」や、学習履歴に基づいて効果的に授業を改善する力を育てるための「授業改善のためのデータ活用」を新設している。なお、これらの授業は、2025年度から移行される。

私立幼稚園の教員は早期離職率が高いため、新任教員と熟達教員の間にある子ども観や保育観などのギャップを埋めるようにするために、次のカリキュラムで「新任保育者論」「熟達保育者論」を新設する準備を進めている。

また、近年における小1プロブレムの深刻化を踏まえ、幼稚園から小学校への滑らかな橋渡しに関する知識・スキルの獲得を意図し、現職の園長や校長、架け橋コーディネーターを糾合した「幼小架け橋論」も新設する予定である。

〔改善の方向性・課題〕

必修科目では、各科目における基本的な考え方の習得を第一とし、各科目の単位は従来、2単位が基本であったが、昨今は特別支援やプログラミング、ICT活用など、履修すべき科目が増えている。そのため、卒業単位の範囲内で多様な科目を修得できるよう、目的や内容に応じて科目の1単位化を進めている。

<根拠となる資料・データ等>

資料

- ・3-1-1：新カリキュラム案の一覧表

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

近隣の幼稚園と小学校、中学校を対象に、「学校インターンシップ」を実施し、日誌の記述と振り返り、教員や他の学生からのフィードバックを通して、実践的指導力の育成を目指している。

〔優れた取組〕

- ・従来は「学校インターンシップ」の実施校と教育実習の実施校が異なっていたため、学校現場における指導性が異なり、学生の実践的指導力を必ずしも十分には育成できていなかった。そこで、一貫した指導ができるようにするために、「学校インターンシップ」（2024年度入学生からは、「学校体験活動」）を実施した学校において教育実習を実施する体制を市内の学校と連携して整えており、来年度から段階的に実施する。
- ・幼稚園課程の実践的指導力の育成については、学生の実践力を現職保育者の水準にできるだけ近づけるために、学生が保育実践後に抱いた疑問に対し、その回答を現職保育者の目線から自動的にフィードバックする ICT 教材の開発を進めている。

〔改善の方向性・課題〕

「学校インターンシップ」はこれまで、1週に1日、学期で10日以上の実施で2単位の修得を基本としていた。しかし近年では、週に1日を開けることができない学生が増えているため、2024年度からは半日（学期で1単位）の実施を基本とする。また、2024年度入学生からは、「学校体験活動」に名称を変更し、2単位までを教育実習の単位とする。

さらに、上記の通り、学校体験活動を実施した学校において教育実習を実施する態勢を整えて、一貫した指導ができるようにする。

<根拠となる資料・データ等>

データ

- ・ 3 - 2 - 1 : 創価大学 HP 「シラバス」 <https://www.soka.ac.jp/department/syllabus/search> から「学校インターンシップ」を検索

資料

- ・ 3 - 2 - 2 : 八王子市の公立小学校における連携型の教育実習の実施に向けたスケジュール

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

教育学部としては、「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」、「学生の確保・育成・キャリア支援」、「適切な教職課程カリキュラム」のそれぞれの基準領域における自己点検を踏まえて、教職課程は適切に実施できていると評価する。また、全学的に教職課程を担うという観点から、教員養成における様々な新たな取り組みを教職キャリアセンターと協働しながら実施できている。改革すべき点はまだ多くあるが、教育学部・教職研究科・教職キャリアセンターという教職課程の中心的機関が定期的に意見交換をしながら、学部の教職課程の改革を着実に実施している。

現在、教育現場では様々な問題がある。中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」において、養成段階の改革が指摘されている。また教職を目指す学生に多様化している。時代の変化に応じた教員養成を志向しながら「令和の日本型学校教育」を担う教師を育成すべく、努力を重ねていく所存である。

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

全体としては、「全学自己点検評価委員会」に「教職課程評価分科会」が設置され、その分科会において各学部の「自己点検評価報告書」の作成について、取り組みが打ち出されている。

各学部においては、「教職課程評価分科会」の委員を中心に「自己点検評価報告書」の原案を作成。教授会において報告した後、教職キャリアセンターに提出をしている。

「教職課程評価分科会」において内容を確認し、「全学自己点検評価委員会」にて最終審議し、承認を得た上で、公表している。

V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人 創価大学					
大学・学部名 創価大学 教育学部					
学科名 教育学科、児童教育学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					190名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					159名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					113名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					72名
④のうち、正規採用者数					61名
④のうち、臨時的任用者数					11名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	13名	12名	6名	2名	
相談員・支援員など専門職員数 5名					

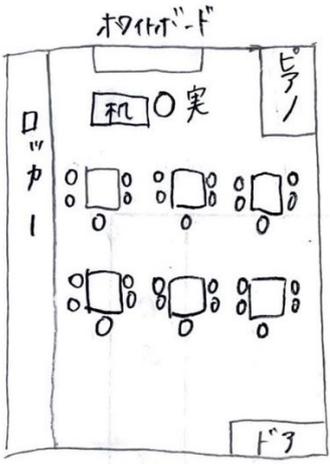
部 分 実 習 指 導 案

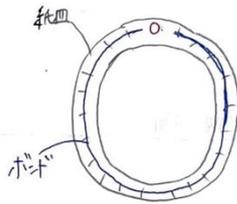
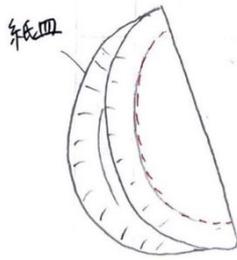
<ul style="list-style-type: none"> 11月 8日 (水) 天気 晴れ 4 歳児 そら 組 在籍数 30 名 (男児 12名・ 女児 18名) 	指導者 先生 実習生 学生A 印
--	---------------------

○前日までの幼児の姿
遠足で落ち葉やどんぐりを拾い、秋を感じている。

○ねらい
 ・自分が拾ってきた落ち葉などを使って、こだわって製作するおもしろさを知る。
 ・完成品を保育室に飾ることで、自分で作った達成感を味わう。

○内容 (活動)
秋の遠足で集めたもみじや落ち葉を使ってもみじリースを作成する

時間	環境構成	幼児の活動	援助・指導上の留意点
10:40	 <p>※実習などで提出するときは定規を使って書きましょう。</p>	○手遊びする 「どんぐりぼうやがたんけん」 ○実習生の話を聞く。 「。」付けるか付けないか統一しましょう。	・全員が着席していることを確認しながら、手遊びを通常 ver. 通りと、内容をゾウさん ver. とに変えて2回行う。 ※指導案なので略語ではなく、書き言葉で記入しましょう。 ・実習生の机に穴あけパッチンと針金を置く。 ・秋の遠足の話をし、どんなことをしたか挙手制で発表する事を伝え思い出させるようにする。 ※保育では子どもに対して「させる」という表現は適切ではありません。 ・セントで思いつかない時は手遊びの中にでてきたことやもみじなどを見せて伝えるヒントを出す。
10:55			
11:00	<ul style="list-style-type: none"> もみじなどの落ち葉 まつぼっくり どんぐり ボンド ハサミ 紙皿 穴あけパッチン 針金(5色:赤・青・緑・黄・紫) それぞれどのくらい準備するかも記入しましょう。	○もみじリースの作り方を聞く ・ロッカーにから? 拾ったものが入っている袋とお道具箱からはさみをも持ってくる	・子どもたちの「つくってみたい」という意欲を引き出せるよう、見本のもみじリースをみ見せる。 ・子どもの動きに対して保育者の援助を対応させましょう。この場合「ロッカーにから? 拾ったものが入っている袋とお道具箱からはさみを持ってくる」とあるので「子どもたちに袋とはさみを持ってくるよう伝える」と記入します。



(作り方)

○もみじリースを作る

1. 紙皿をリースの土台になるように皿の中心部分を切り取る
2. 紙皿の上方に穴をあけ、ボンドを塗る
3. もみじなどの落ち葉や松ぼっくり・どんぐりなどを好きなように紙皿に貼っていく

→穴に被らないように貼る

※穴に被らないように貼るために保育者からの声掛け、援助が必要だと感じます。子どもの姿よりも指導内容に記入すると良いですね。

4. 紙皿の穴に針金を通し、輪を作りねじる
→けがをしないように気を付ける

・予備の落ち葉とボンドをそれぞれの机の真ん中に置く。

・自分の好みや個性を表現できるように、自分自身が見つけてきた好きな紅葉を使って製作するよう伝える。

・拾ってきた落ち葉などがなくなったら、机に置いている落ち葉を使ってもいいことを伝える。

・穴あけをする際は、完成したリース（輪っか状に切り取り終わったリースですか？完成した、だと飾り付けも終わった後のように感じます。）をもって実習生の机で行うことを伝える。

→その時に、針金の希望の色を聞くこと

※指導案はメモ用紙ではないので、きちんと記入しましょう。この場合「その際、子どもたちに針金の色の希望を取る。」といったようにします。

・自分の好みや個性を表現できるように、自分自身が見つけてきた好きな紅葉を使って製作するよう伝える。

※水色マーカー部分、内容が重複しています。

・だいたい紙皿が見えなくなるまで紅葉を貼っていることを確認し、実習生の机に持ってくるよう促す。

・穴あけをする際、けがをせず自分の力で見守る。

※穴あけは飾り付けた後もう一度行うのでしょうか？時系列が整っていないので、読み返して整理しましょう。

・好きな色の針金を選び、(自分たちで選ぶのであれば、先ほど針金の色の希望を聞いた意図は何でしょうか?) けがをしないように針金を通し、ねじるように伝える。

・子どもたちが満足感を感じられるよう、それぞれの作品の個性や善良

		<ul style="list-style-type: none"> ・リースを乾燥棚に置く ・手を洗う ・片付ける 	<p>さを具体的に褒める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した子どもから実習生に声をかけ、許可を得たら（誰に、何の許可を得るのでしょうか…？）完成品を乾燥棚に置き、片付けるように伝える。 ・作業しているまだ製作が終わっていない園児もいるため、立ち歩く際は周りに気を付けて歩くように伝える。 ・手についたボンドを綺麗に洗うように伝える。 ・他のクラスも保育しているため、静かに片付けるように声をかける。
<p>評価 ・ 反省</p>			
<p>指導</p>	<p>指導案作成、大変にお疲れ様でした！遠足での経験を活かして、子どもの興味ややる気を引き出せる活動内容がとても良いと感じました。特に、作って終わり、ではなく保育室に飾ることで季節感ややりがいを感じる良いきっかけになりますね。伸びしろとしては2点あります。1点目は子どもの動き、姿に対して保育者（実習生）の援助が対応していない部分が目立ちました。子どもの姿を予想しながら、流れに沿って援助内容を記入しましょう。2点目は、保育者の援助の内容、意図が見えづらかったため、もう少し詳しく書けると良いですね。例えば「怪我をしないように伝える」ではなく「針金が目や顔に刺さらないよう、持ち方やねじり方を実際にやって見せながら伝える。」といった方が保育者の意図や援助内容が見えてくると思います。厳し目に書いてしまいましたが、何か疑問点や不明点ありましたらいつでもお伝えください。応援しています！</p>		

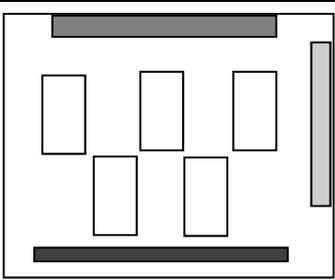
部 分 実 習 指 導 案

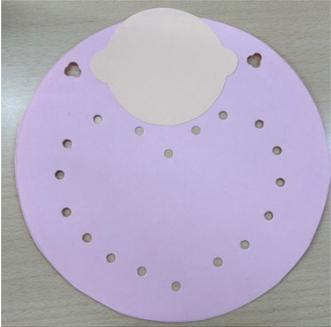
・ 11月 15日 (水) 天気 晴れ	指導者	先生
・ 5歳児 こすもす組	実習生 学生 B	印
・ 在籍数 22名 (男児 8名・ 女児 14名)		

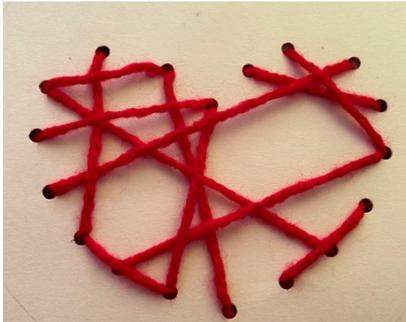
○前日までの幼児の姿
 ・お友達だちの作っているものを見ながら、良い部分を取り入れようとする姿がある
 ※友だち、の「達」は実習日誌などでもひらがな表記が望まれます。また言葉の頭に「お」「ご」など丁寧語は付けません。

○ねらい
 ・お友達と思いを共有しながら、毛糸やリボンを穴に通すおもしろさを知る
 ・働いている人がいるおかげで安心して生活できることに気づき、自分なりに感謝の気持ちを表現する

○内容 (活動)
 ・毛糸を用いてありがとうめだるを作る

時間	環境構成	幼児の活動	援助・指導上の留意点
10:30		・朝の会終了後、机に置いておくがありますがその間子どもはどこにいる想定ですか？	・お仕事への興味や製作したい気持ちを引き出すため、朝の会終了後、園児の机に「いつも、おとうぼんのおしごとをしてくれてありがとう」と書いたメダルを一人一つ置いておく。(文末には「。」を付けましょう！以下省略します。)
10:40	<p>□: 机 ■: 黒板 □: ドア ■: ロッカー</p> <p>○用意するもの ・園児へのプレゼント 22枚(1人1つ)</p>	○実習生のお話を聞く。	<p>・勤労感謝の日について知りたい気持ちが増すよう、もうすぐある大切な日だからみんなにメダルを作ったことを伝える</p> <p>※話し言葉になっています。5歳児に対する声掛けにするなら「勤労感謝の日がもうすぐ来るから、せんせいから皆にありがとうのメダルを作ったよ」と伝える、など。</p>
10:45			・勤労感謝の日がどのような意味を持つ日か確認し合うため、黒板に「きんろうかんしゃのひ」と書き、働いてくれている人に感謝する日であることを伝える
10:48	<p>・はさみ 10個(各テーブル2個ずつ)</p> <p>・メダルの完成品</p>		※意味を確認し合うための援助＝文字を黒板に書く、だと繋がらない感じがします。例えば「子どもたちに何の日か知っているか質問する」「お仕事とはどんなものがあるか考えてもらう」などが考えられますね。

<p>10 : 55</p>	<p>○材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つまようじに繫げた毛糸 47 本(人数分×2 + 予備 3 本) けがを防ぐため、あらかじめつまようじの先端を切り落とし、テープで巻いておく  <ul style="list-style-type: none"> ・お顔のついたピンクの画用紙 25 枚(人数分+予備 3 枚) 	<p>○手遊び「おおきくなったらなんになる」を楽しむする。</p> <p>○実習生のお話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・けがが怪我を防ぐため、一度？メダルを回収する ・仕事についてまだイメージの湧かない園児も、みんなで楽しく働いている人を身近に感じられるよう、職業に関連した手遊びをする ・園児の感謝の心を引き出せるよう、みんなの身近にいる働いている人について聞く ・園児が製作するもののイメージが持ちこち、より作りたい気持ちが増すよう、完成品を見てもらう ・園児の心から自然と湧いてきた感謝を大切にするため、それぞれの園児が誰に作るか決める時間を設ける※上記の援助で「感謝の気持ちを引き出す」とあったので「自然と湧いてきた」と噛み合わない印象です。書くなら「園児の持つ感謝の気持ちを大切にするため」が良いと思います。
<p>11 : 15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の紙テープ 10 個(各テーブル 2 つずつ) ・リボン(青・赤) 	<p>○メダル製作を楽しむする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児に募る、問いかける援助に対してどのような姿が予想されますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って製作に取り組めるよう、製作するときの順序や時間、バットの中身を黒板に示しながら確認する ・けがを防ごうという意識を持ちながら活動していかれ出来るよう、つまようじを使用するときの注意点を園児から募る
<p>11 : 20</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今回の製作の工程ややり方は記入されていますか？読み手が指導案を読んで、保育が出来るくらい「糸の通し方」「余った糸の切り方」等具体的にかつ丁寧に記入しましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は工程が複雑なため、子どもたちが理解しやすいよう大きめの画用紙を用いて作り方を説明しながら一緒に作る

		<p>1 ハートを作る</p>  <p>2 似顔絵や好きな文字、飾りを描く</p>  <p>○片付け・活動の振り返りを行う。</p> <p>※作り終わった気持ちは「楽しかった」「難しかった」など活動に対する感想が多い気がします。そこから「感謝の心に気づく」ようにするには別の援助が必要だと思います。</p>	<p>・誰に作るか迷っている園児も自分で決められるよう、個別で一緒にアイデアを出す</p> <p>※この援助は誰に作るか決める時間に行うものでは？</p> <p>・園児同士で協力し合えるよう、活動を見守る</p> <p>※「協力し合う」意図に対して、「見守る」援助だと難しい気がします。</p> <p>・ハートが作り終わった園児には、ロッカーから自分のクレヨンを持ってくるよう伝える</p> <p>※文字、飾りを描くための援助はどうしますか？</p> <p>・完成したら挙手をして知らせるよう伝え、一緒にリボンを付ける</p> <p>・リボンを付けた園児は片付けや絵本を読んで待っているよう伝える</p> <p>・次の製作への意欲につながるよう、毛糸やリボンを通す活動を通じた思い？（活動に取り組み感じた事？）を振り返る</p> <p>・自分の中にある感謝の心に気づけるよう、作り終わった後の率直な気持ちを共有し合う</p>
<p>評価 ・ 反省</p>			
<p>指導</p>	<p>指導案作成、大変にお疲れ様でした。返却が遅くなり申し訳ありませんでした。5歳児さんにあった活動内容で素敵ですね。導入で、保育者からのプレゼントがあった事でプレゼントを貰う嬉しさが味わえた事でより製作に意欲的になれるな、と感じました。伸びしろとしては、丁寧語は省く事、「。」を付けることなど、記入の仕方についてです。自身で調べたり記入例を見て勉強してみてくださいね。また、意図と援助が対応していない部分が目立ちました。この援助で意図が達成出来るか、一つひとつ確認して見ましょう！少し厳しく書いてしまいましたが、何か不明点ありましたらお伝えください。応援しています！</p>		

幼稚園教諭・保育士・保育教諭のキャリアデザインマップ（2023.8版）

	春学期	夏休み	秋学期	春休み
1年	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園の違いに関する理解 幼稚園教諭や保育士、保育教諭の役割に関する理解 幼稚園教諭免許状や保育士資格取得に向けた履修の決定 教育学部「保育者養成対策講座」登録 	<ul style="list-style-type: none"> 私立及び公立の幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園(6タイプ)でのボランティア(2週間)⇒適性判断 保育士試験の学習開始 参考書を徹底的に暗記(保育原理・保育の心理学・子ども家庭福祉・社会福祉) ピアノ技術の習得(基礎) 	<ul style="list-style-type: none"> 6タイプ園ボランティア(週1回)⇒適性判断 保育士試験の学習 参考書を徹底的に暗記(教育原理・社会的養護・子どもの保健・子どもの食と栄養・保育実習理論) 	<ul style="list-style-type: none"> 6タイプ園ボランティア(2週間)⇒適性判断 幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の読了 保育士試験の学習 過去問(全年度分) ピアノ技術の習得(基礎) 子ども観及び保育観の明確化(1期)
	基礎・基本の定着 適性判断			
2年	<ul style="list-style-type: none"> 「学校研究」の履修及びインターンシップの登録 インターンシップまたはボランティア(週1回) ①保育者の乳幼児への援助を見て学び、乳幼児理解や個及び集団に応じた多様な援助(言葉かけ含む)の理解を深める。 ②記録及び指導案立案 保育士試験(前期) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所ボランティア(2週間) ピアノ技術の習得(子どもの歌) 保育士試験の学習 ①過去問(全年度分) ②オリジナル問題集 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップまたはボランティア(週1回) ①援助レポートリー増加を図るとともに、保育者の援助の意図を探る ②記録及び指導案立案 「教育とキャリア」の受講 保育士試験(秋期) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所ボランティア(2週間) ピアノ技術の習得(子どもの歌) 保育士試験の学習 ①過去問(全年度分) ②オリジナル問題集 子ども観及び保育観の再構成(2期)
	理論と実践の融合 保育士試験合格			
3年	<ul style="list-style-type: none"> 「学校研究」の履修及びインターンシップの登録 インターンシップまたはボランティア(週1回) ①保育者の言葉かけ及び語彙を学ぶ ②記録及び指導案立案 保育士試験(前期) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所ボランティア(2週間) ピアノ技術の習得(子どもの歌) 公立幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園教員採用試験対策開始 ①専門科目 ②小論文 保育士試験の学習 ①過去問(全年度分) ②オリジナル問題集 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップまたはボランティア(週1回) ①環境構成の意図を読み取る ②記録及び指導案立案 保育士試験(秋期) 	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ技術の習得(子どもの歌) 公立幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園教員採用試験対策開始 ①専門科目 ②小論文 ③面接 保育士試験の学習 ①過去問(全年度分) ②オリジナル問題集 子ども観及び保育観の再構成(3期)

実践知の向上 教員採用試験及び教育実習の事前準備				
4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園教員採用試験 ・教育実習(4週間) ・保育士試験(前期) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ技術の習得(子どもの歌) ・保育系論文の熟読 ・保育士試験の学習 <ul style="list-style-type: none"> ①過去問(全年度分) ②オリジナル問題集 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習における自己課題の明確化 ・卒業論文の執筆開始 ・教育実習(4週間) ・保育士試験(後期) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己課題の克服 ・ピアノ技術の習得(子どもの歌) ・子ども観及び保育観の再構成(4期)
	教育実習 専門性の深化 保育者及び研究者の両眼の獲得			

○幼稚園教諭・保育士・保育教諭のキャリアデザインマップに関する補足説明

1.4 年間を通して

「人間教育」とは何かを探求し、人間主義に基づいた幼児教育・保育学の探求と幼児教育・保育の実践を行うことができる。

☆子どものために学び、成長し続けることができる。

☆自身が描く学校(幼稚園)や児童福祉施設における子ども観及び保育観、保育者像を理論と実践を踏まえ、具体的に口頭説明することができる。

☆登園から降園場面における様々な子どもの姿を予想し、自身の子どもに対する環境構成や指導・援助の意図を込めた保育指導案を構想して実践することができる。

☆子どもに対する環境構成や指導・援助の意図を主観・客観的に口頭説明することができる。

☆インターンシップやボランティア、教育実習を通して個々の強みはより伸ばし、弱みは具体的な対策を立ててその克服に努めることができる。

2.保育者(公立・私立)を目指すに当たり、取り組むべき内容

○適性判断

1年次におけるボランティアは、私立及び公立の幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園の全てで行うこと(企業の保育所を検討しても可)。

○保育士資格の取得

幼保連携型認定こども園の採用は幼稚園教諭免許状と保育士資格取得が必須要件となる。そのため、保育士資格は2年次前期から保育士試験を受験して必ず取得すること。

○実技

手遊びやピアノなどの実技は、教育実習(幼稚園)までにレパトリーを増やしておくこと。

○英語

外国につながる子どもが急増しているため、保育英語検定を受検することが望ましい。

○採用試験

特に、公立の幼稚園教諭や保育士を志望する場合は採用試験対策を早期に開始すること。

小学校教員のキャリアデザインマップ°（2023.8 版）

	春学期	夏休み	秋学期	春休み
1年	<ul style="list-style-type: none"> 各授業科目の学習を通じた、4年間で身につけた教師としての資質・能力の明確化 大学での学びへの適応 	<ul style="list-style-type: none"> 教職に関する情報収集（教員養成系雑誌等） 基礎学力の向上（苦手領域の克服） 子どもと触れ合うイベントへの積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> 教員や先輩との対話を通じた、進路の確定・実現のためのイメージの具体化 勉強のリズム（学習習慣）の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業／研究会への積極的参加 基礎学力の向上（苦手領域の克服） 子どもと触れ合うイベントへの積極的参加
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力についての苦手克服（最低限、中学校の学習内容で不明な点が無いようにしておく） 教員採用試験と4年間の教職のキャリアについてのイメージを持つ 				
2年	<ul style="list-style-type: none"> 各教科教育法の学習を通じた、基礎的・基本的知識の習得 進路に直結する活動への焦点化 面接やグループディスカッションの練習を始める 学校インターンシップ／学校サポーターへの登録・参加 	<ul style="list-style-type: none"> 求めるべき教育観・学習観と、なるべき教師像の明確化と、ゼミ選択のための情報収集 小論文の対策を始める（必要に応じて） 子どもと触れ合うイベントへの積極的参加 公開授業／研究会への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科教育法の学習を通じた、基礎的・基本的知識の習得 授業づくりや児童理解、学級経営、生活指導のあり方についての理解 学校インターンシップ／学校サポーターへの登録・参加 	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用試験へ向けた準備第1期の終了 ● 教職教養の問題集 1冊1周終了 ● 専門教養の問題集 1冊1周終了 ● 自治体によっては、一般教養の対策も ● 公開授業／研究会への積極的参加
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力のさらなる向上／教育観・学習観・授業観、理想の教師像の更新 教員採用試験（前倒し受験）で筆記試験をパスし、3年次秋から二次試験（東京都の場合は一次選考の論文も必要）の対策を開始する 				
3年	<ul style="list-style-type: none"> 採用試験（前倒し受験）のための徹底的な学習 学校インターンシップ／学校サポーターへの登録・参加 学生相互による模擬授業や教材研究などを通じた、各教科の指導法についての理解の深化・拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用試験へ向けた準備第2期の終了 ● 教職教養の問題集 2冊2周終了 ● 専門教養の問題集 2冊2周終了 ● 法規や解説本も参考に ● 公開授業／研究会への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時までの学習課題の明確化（教師としての専門性とは何か？の再確認） ● 教育カウンセリングや特別支援についての理解 ● 学校インターンシップ／学校サポーターへの登録・参加 	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用試験へ向けた準備第3期の終了 ● 面接やグループディスカッションの練習を本格化する ● 小論文対策の本格化（必要に応じて） ● 公開授業／研究会への積極的参加
<ul style="list-style-type: none"> 教師としての専門性を高めるための活動【授業研究クラブや学外の研究大会への参加】 教員採用試験（前倒し受験）で筆記試験をパスし、3年次秋から二次試験の対策を開始する 				
4年	<ul style="list-style-type: none"> 教員採用試験合格のための、徹底的な学習（●教育実習の十分な準備）（●教育実習） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員採用試験合格 ● 公開授業／研究会への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門性を高めるための卒業論文の執筆（●教育実習の十分な準備）（●教育実習） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員一年目を生き抜くためのノウハウの蓄積 ● 着任後1週間、1ヶ月のための具体的な準備
<ul style="list-style-type: none"> ※教員採用試験の二次試験対策の本格実施 			<ul style="list-style-type: none"> ※専門性を高めるための活動（強みを伸ばす） 	

補足説明

1. 4年間を通して

- ☆ 「なりたい教師像」と、「なるべき教師像＝求められる教師像」について考え、明確化する。
- ☆ 情報収集を継続的に行う(出版物／教員／先輩／インターネット)。
- ☆ 小学校教員は自分の武器となる教科を設定することが望ましい。そうすることで、自信につながる。
- ☆ 教職に関する実践力については「教職クラブ」や「授業研究クラブ ステップラボ」等を活用する。
- ☆ 学校インターンシップ／学校サポーターを通して、現場に根ざした課題を見つけ、大学での学びにつなげる。
- ★ 「教育学部で学ぶことで身につく力」の獲得を目指しながら、自分の武器を高める4年間を送る。

2. 教員採用試験や教育実習に向けた心構え

- ☆ 受験する地域の教育目標・教育的課題を調べる（都道府県、市町村）。
 - 面接や小論文に柔軟に対応するためには、早めに把握し、多角的に深めることが必要。
 - 表面的に話せるだけでは不十分。質問に応じて、自分の言葉で、臨機応変に答えることが重要。
- ☆ 教育実習先の学校の様子を調べる（教育目標、理念、教育実践など）。
 - 実習期間中の経験をより豊かにするためには、早めに把握し、学習/生活指導を具体的に考えることが必要。
 - 実習を通して自身を売り込む姿勢を忘れない。
 - 実習先の先生方の負担も考え、感謝し、貢献しようとする気持ちを忘れない。

3. 小学校教員に必要な資質・能力のうち、苦手なものについては個別に取り組む必要が高い事項

- きれいな字
「学校の先生の字」が書けることが重要。連絡帳などは保護者も目にする。特に、チョークで書く板書の字については「早く、きれいに」書ける練習が必要。教育実習開始までに、長期的・継続的に練習すること。
- 体育実技
水泳、鉄棒、跳び箱、マット運動等、教員採用試験対策の一環としても早めに取り組む。苦手な種目については、該当する実技系の授業(学部専門科目を中心に)を積極的に履修すること。
- ピアノ実技
短期間での習得が難しいため、1年次より課題意識をもって練習に取り組むこと。
- 英語
小学校における英語教育の実施に伴い、英語力も必要不可欠である。自分のレベルに合った学習を。
- 教科の専門的知識
学習内容に興味を持たせ、教科書の内容を消化するだけで終わってしまう授業にならないようにするためには、専門性に根ざした幅広い知識が必要である。日常的に、見識を広げるためのアンテナを張り巡らすことが重要。
例. 国語における文学作品・評論・古典、社会における歴史・地理・近現代史・政治・時事等

中学校・高等学校のキャリアデザインマップ（2023.8 版）

	春学期	夏休み	秋学期	春休み
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業科目の学習を通して、4年間で身につけた教師としての資質・能力の明確化 ・大学での学びへの適応 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関する情報収集（教員養成系雑誌等） ・取得する免許科目に関する苦手領域の克服 ・学校ボランティア（部活動の支援など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や先輩との対話を通して、進路の確定・実現のためのイメージの具体化 ・勉強のリズム（学習習慣）の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業／研究会への積極的参加 ・取得する免許科目に関する苦手領域の克服 ・学校ボランティア（部活動の支援など）
	<ul style="list-style-type: none"> ・取得する免許科目に関する苦手領域の克服（専門科目の高校レベルの学習内容について復習） ・教員採用試験と4年間の教職のキャリアについてのイメージを持つ 			
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科教育法の学習を通して、基礎的・基本的知識の習得 ・進路に直結する活動への焦点化 ・面接やグループディスカッションの練習を始める ・学校インターンシップ／学校サポーターへの登録・参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・求めるべき教育観・学習観と、なるべき教師像の明確化と、ゼミ選択のための情報収集 ・小論文の対策を始める（必要に応じて） ・学校ボランティア（部活動の支援など） ・公開授業／研究会への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科教育法の学習を通して、基礎的・基本的知識の習得 ・授業づくりや生徒理解、学級経営、生徒指導のあり方についての理解 ・学校インターンシップ／学校サポーターへの登録・参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験へ向けた準備第1期の終了 <ul style="list-style-type: none"> ☛ 教職教養の問題集 1冊1周終了 ☛ 専門教養の問題集 1冊1周終了 ☛ 自治体によっては、一般教養の対策も ・公開授業／研究会への積極的参加
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力のさらなる向上／教育観・学習観・授業観、理想の教師像の更新 ・教員採用試験（前倒し受験）で筆記試験をパスし、3年次秋から二次試験（東京都の場合は一次選考の論文も必要）の対策を開始する 			
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・採用試験（前倒し受験）のための徹底的な学習 ・学校インターンシップ／学校サポーターへの登録・参加 ・学生相互による模擬授業や教材研究などを通して、教科の指導法についての理解の深化・拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験へ向けた準備第2期の終了 <ul style="list-style-type: none"> ☛ 教職教養の問題集 2冊2周終了 ☛ 専門教養の問題集 2冊2周終了 ☛ 法規や解説本も参考に ・公開授業／研究会への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時までの学習課題の明確化（教師としての専門性とは何か？の再確認） ・教育カウンセリングや特別支援についての理解 ・学校インターンシップ／学校サポーターへの登録・参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験へ向けた準備第3期の終了 <ul style="list-style-type: none"> ☛ 面接やグループディスカッションの練習を本格化する ☛ 小論文対策の本格化（必要に応じて） ・公開授業／研究会への積極的参加
	<ul style="list-style-type: none"> ・教師としての専門性を高めるための活動【学外の研究大会への参加や勉強会の企画】 ・教員採用試験（前倒し受験）で筆記試験をパスし、3年次秋から二次試験の対策を開始する 			
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験合格のための、徹底的な学習（・教育実習の十分な準備）（・教育実習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験合格 ・公開授業／研究会への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を高めるための卒業論文の執筆（・教育実習の十分な準備）（・教育実習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一年目を生き抜くためのノウハウの蓄積 ・着任後1週間、1ヶ月のための具体的な準備
	<ul style="list-style-type: none"> ※教員採用試験の二次試験対策の本格実施 			<ul style="list-style-type: none"> ※専門性を高めるための活動（強みを伸ばす）

補足説明

1. 4年間を通して

- ☆ 「なりたい教師像」と、「なるべき教師像＝求められる教師像」について考え、明確化する。
- ☆ 情報収集を継続的に行う(出版物／教員／先輩／インターネット)。
- ☆ 武器となる領域や分野、単元を設定して探究し、教材を通した教科の見方・考え方、教材に関する深い知識を具体的に有することが望ましい。そうすることで、自信につながる。
- ☆ 実践力を高めるために、教職クラブで勉強会を企画したり、学外の研究大会に積極的に参加したりする。
- ☆ 学校インターンシップ／学校サポーターを通して、現場に根ざした課題を見つけ、大学での学びにつなげる。
- ★ 「教育学部で学ぶことで身につく力」の獲得を目指しながら、自分の武器を高める4年間を送る。

2. 教員採用試験や教育実習に向けた心構え

- ☆ 受験する地域の教育目標・教育的課題を調べる（都道府県、市町村）。
 - 面接や小論文に柔軟に対応するためには、早めに把握し、多角的に深めることが必要。
 - 表面的に話せるだけでは不十分。質問に応じて、自分の言葉で、臨機応変に答えることが重要。
- ☆ 教育実習先の学校の様子を調べる（教育目標、理念、教育実践など）。
 - 実習期間中の経験をより豊かにするためには、早めに把握し、学習/生活指導を具体的に考えることが必要。
 - 実習を通して自身を売り込む姿勢を忘れない。
 - 実習先の先生方の負担も考え、感謝し、貢献しようとする気持ちを忘れない。

3. 中学校・高等学校教員に必要な資質・能力のうち、苦手なものについては個別に取り組む必要が高い事項

- きれいな字
はっきりと読みやすい字を書けるようにしておく。小学校ほどのきれいさは求められないが、社会人として恥ずかしくない字が書けるようにすること。
- 教科の専門的知識
学習内容に興味を持たせ、教科書の内容を消化するだけで終わってしまう授業にならないようにするためには、専門性に根ざした幅広い知識が必要である。日常的に、見識を広げるためのアンテナを張り巡らすことが重要。(例. 英語における文化、歴史、生活、一般教養、時事、文学作品、社会における歴史・地理・近現代史・政治・時事等)
- 「道徳」や「総合的な学習(探究)の時間」への対応
自分の武器として、任せられれば担当できるよう、また、教員採用試験の際にアピールできるよう、準備しておくことが望ましい。学習指導要領や解説本を読みつつ、学習指導案を書いたり、模擬授業を実施することに加え、良質の授業を実際に見ておくこと(DVD やネット上の動画等でも良い)が重要。(YouTube「シリーズ 授業まるごと！」(大分県教育チャンネル)は手軽に視聴できる。ただし、ここで紹介されている授業が最良であると言うわけではない。学校研究などでの学習成果をふまえながら、良い点・悪い点を見極める目を養うこと。)

	科目名	学部専門			教職		1		2 必修		2 選択		3 必修		3 選択		4 必修		4 選択	
		必修	選必	選択	必修	選択	共通	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
小学校 教職	教育原論	4			4			4												
	教職概論		2		2			2												
	教育行財政学		2		2					2										
	教育・学校心理学		2		2					2										
	インクルーシブ教育論		1		1								1							
	カリキュラム論		1		1					2										
	道徳教育論			2	2					2										
	総合的な学習の時間の指導論			1	1									1						
	特別活動論			1	1					1										
	教育の方法と技術		2		2								2							
	生徒・進路指導論			2	2					2										
	教育カウンセリング			2	2								2							
	ICT活用教育の理論と方法			1	1				1											
	教育実習事前講義(幼・小)			1	1								1							
	学校体験活動I(幼・小)			2		2						2								
	学校体験活動II(幼・小)			2		2						2								
	学校体験活動III(幼・小)			1		1						1								
	学校体験活動IV(幼・小)			1		1						1								
	教育実習(幼・小)			2		2								2						
	教職実践演習(小)			2		2												2		
	国語科内容論			2		2			2											
	国語科教材研究(文学・物語)			2		2									2					
	国語科教育実践演習I(読解・言語活動)			1		1											1			
	国語科教育実践演習II(**)			1		1											1			
	算数科内容論			2		2			2											
	算数科教材研究(図形)			2		2										2				
	算数科教育実践演習I(変化と関係)			1		1											1			
	算数科教育実践演習II(データの活用)			1		1											1			
	社会科内容論			2		2			2											
	社会科教育実践演習I(地理)			1		1											1			
	社会科教育実践演習II(歴史)			1		1											1			
	理科内容論			2		2			2											
	理科教育実践演習I(実験)			1		1											1			
	理科教育実践演習II(観察)			1		1											1			
	家庭科内容論			1		1								1						
	生活科内容論			1		1								1						
	英語科内容論			2		2				1										
	英語科教育実践演習I			1		1										1				
	英語科教育実践演習II															1				
	音楽科内容論			1		1			1											
音楽科教育実践演習			1		1										1					
図工科内容論			1		1			1												
図工科教育実践演習(美術表現基礎)			1		1											1				
体育科内容論			1		1			1												
体育科教育実践演習			1		1											1				
国語科教育法			2		2					2										
社会科教育法			2		2					2										
算数科教育法			2		2					2										
理科教育法			2		2					2										
英語科教育法			2		2					1										
音楽科教育法			1		1					1										
生活科教育法			1		1									1						
家庭科教育法			1		1									1						
図工科教育法			1		1					1										
体育科教育法			1		1					1										
小学校 教職外	学校研究		2							2										
	授業改善のためのデータ活用		2													2				
	授業技術			2												2				
	観察実習(教育現場観察実習)			1				1												
	特別活動演習			1												1				
	ピアノ基礎			1									1							
	ピアノ応用			1									1							
	ピアノの弾き歌い			1												1				

	科目名	学部専門		教職		1		2 必修		2 選択		3 必修		3 選択		4 必修		4 選択	
		必修	選択	必修	選択	共通	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
		必修	選択	必修	選択	共通	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
幼稚園 教職	幼児教育課程論			2	2				2										
	幼児教育方法論			2	2				2										
	幼児理解の理論と方法			2	2				2										
	幼児と健康			2	2		2												
	幼児と自然体験			2	2								2						
	幼児と人間関係			2	2		2												
	幼児とコミュニケーション			2	2								2						
	幼児と環境			2	2		2												
	幼児と環境構成			2	2								2						
	幼児と言葉			2	2			2											
	幼児と発話			2	2									2					
	幼児と表現			2	2			2											
	幼児と音楽			2	2									2					
	幼児と造形			2	2									2					
	保育内容(健康)演習			2	2				2										
	保育内容(人間関係)演習			2	2				2										
	保育内容(環境)演習			2	2					2									
	保育内容(言葉)演習			2	2					2									
保育内容(表現)演習			2	2					2										
幼稚園 教職外	保育原理			1			1												
	保育内容総論			1			1												
	新任保育者論			1									1						
	熟達保育者論			1									1						
	保育内容総合演習			2							2								
	幼少架け橋論			2											2				
	教職実践演習(幼)			2	2												2		
特別 支援	特別支援教育概論			2	2														
	知的障害者の心理・生理・病理			2	2														
	肢体不自由者の心理・生理・病理			2	2														
	視覚障害・聴覚障害者の心理・生理・病理			2	2														
	知的障害者の心理特論			2	2														
	知的障害教育論Ⅰ			2	2														
	知的障害教育論Ⅱ			2	2														
	肢体不自由教育論			2	2														
	病弱教育論			2	2														
	病弱者の心理・生理・病理			2	2														
	発達障害者の心理・生理・病理			2	2														
	視覚・聴覚障害教育論			2	2														
	発達障害教育論			2	2														
	教育実習(特別支援)			3	3														
学科 専門	スタディー・リーダー基礎							2											
	心理学概論	4						4											
	社会教育概論																		
	発達心理学			2					2										
	教育史A																		
	教育史B																		
	国際理解教育論																		
	国際開発教育論																		
	比較・国際教育論																		
	教育社会学			2															
	教育方法学			2															
	演習Ⅰ		2									2							
	演習Ⅱ		2										2						
	演習Ⅲ		2											2					
	演習Ⅳ			2														2	
	卒業研究Ⅰ			2											2				
	卒業研究Ⅱ			2														2	
	ミュージアム・エデュケーションⅠ			2															
ミュージアム・エデュケーションⅡ			2																
海外教育事情			3																
海外教育研修			3																
教育学特講A			2																
教育学特講B			2																
共通 科目	日本国憲法			2	2	2													
	体育実技			1	1		1												
	体育講義			2	2	2													
	第1外国語			2	2	2	2	1	1										
	第2外国語					2	2												
	データサイエンス入門					2													
	初年次セミナー					2													
	学術文章作法						2												
	大学科目											2	2						
	世界市民教育科目											2	2						

2023/11/24

八王子市の公立小学校における連携型の教育実習の実施に向けたスケジュール(仮)

教職キャリアセンター

【背景】

- ・文部科学省が教育実習の4単位中の2単位を「学校体験活動」で代替することを推奨している。
- ・教員採用試験受験時期の前倒し等の影響もあり、教育実習の時期を3年秋に固定することが望ましい。

【課題】

- ・3年秋の2週間の教育実習を実現するためには、大学周辺小学校と連携を強化する必要がある。

【対応】

- ・2024年度以降、モデルケースとして数名の学生を大学の近隣小学校へ派遣することを検討中である。

	現行カリのなかで試行的に実施		文科省への変更申請で対応		新カリ(予定)
	2022 入学	2023 入学	2024 入学	2025 入学	2026 入学
2023 年度	現2年生に対して希望調査(済み) ※3名程度	現1年生に対して希望調査(未実施)			
2024 年度	【モデルケース】 3年次:インターン+同じ学校での教育実習(4週間)	2年次:半日からインターン実施可(学校インターンⅢ・Ⅳを使い1単位から認定)			
2025 年度		【モデルケース】 3年次:インターン+同じ学校での教育実習(4週間)	2年次:学校体験活動		
2026 年度			3年次:学校体験活動+教育実習(2週間)	2年次:学校体験活動	※「観察実習」の実施を検討中
2027 年度				3年次:学校体験活動+教育実習(2週間)	2年次:学校体験活動
2028 年度					3年次:学校体験活動+教育実習(2週間)

※2024年度入学生以降のいわゆる母校実習の扱いについては検討中

※モデルケースについては「小学校」においてのみ実施予定

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

令和6年3月

創価大学文学部

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	8
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	1 2
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	1 2
V	現況基礎データ一覧	1 3

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：創価大学 文学部
- (2) 所在地：東京都八王子市丹木町 1-236
- (3) 学生数及び教員数

学生数： 教職課程履修 261 名／学部全体 1444 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）26 名／学部全体 46 名

（令和 5 年 5 月 1 日現在）

2 特色

本学では、教職課程の運営について全学的な組織として「教職キャリアセンター」を設置している。センターは、学長の直属機関として教職課程全般について担っている。センターには、学長が任命した「センター長」及び「副センター長」を配置し、さらに専門の事務職員を 3 名配置している。センターは、学生に対して各種ガイダンス及び履修指導等を行い、また全学（学部・大学院）の教職課程を統括して、文科省等への各種報告や課程認定申請（課程の変更申請含む）等を担っている。

文学部では、「文学部教職委員会」を設置し、学部長の下で学部の教員養成について検討・協議している。教職員会では、国語、社会（高等学校は地理歴史・公民）、英語の教職専門科目を担当している教員を構成員として、教職科目の適切性や学生の教育課程について検討している。また、「文学部教職生大会」を企画し、教職キャリアセンターの協力を得ながら、教職科目履修学生の連携や卒業生と交流できる場を設定することによって、学生の教職への意識を高めている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

本学は、建学の精神として、「人間教育の最高学府たれ」「新しき大文化建設の揺籃たれ」「人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ」を掲げている。この建学の精神にある「人間教育」は、本学の教員養成の原動力となるものである。文学部は、特に「人間教育の最高学府たれ」の精神に基づいて、人間性に富み、学識の深い教員を育成することを目指している。さらに、文学部は、三つの指針をもち、それぞれの指針に従い、以下の能力をもつ教員を育成することを目指している。

1. 第一の指針「生命尊厳の探究者たれ！」に基づき、一人ひとりの個性と可能性を尊重できる教員を養成する。
2. 第二の指針「人類を結ぶ世界市民たれ！」に基づき、世界市民としての広い教養を備え、チームワークで教育に当たる教員を養成する。
3. 第三の指針「人間主義の勝利の指導者たれ！」に基づき、現場対応力があり、リーダーシップを発揮できる教員の養成を目指す。

上記の内容を「文学部教員養成理念」の中で明記して、教職キャリアセンターHPにおいて公開し、文学部内の文学部教職委員会を中心に、教職員間での共有と理解、そして、ガイダンスや授業などを通して学生への周知、共有を図っている。

〔優れた取組〕

建学の精神を学ぶ大学科目（共通科目）や文学部三指針について学ぶ「人間学」（文学部科目）などを通して、生命の尊厳を様々な角度から探求できる教員養成を目指すことができる。

教職課程の学生が学内外の様々な行事や活動に積極的に参加するよう促している。また、

初年次教育のSAを務めることを推奨している。それらの活動の中で、学生がチームワークで物事に取り組む力やリーダーシップを身につけることができるように指導する方針を立てている。

〔改善の方向性・課題〕

本学の教職課程では、どのような教師を育成すべきか教師像が明確に定められておらず、教職課程内での指導の一貫性を保つためにも、今年度、教師像として、「子どもの未来に対して責任を持つ教師」「子どもの自律的・協働的に学ぶ力を育てる教師」「子どもを心から慈しみ、励ます教師」との案が検討されている。大学として決定されたのちは、学部として、上記の目標とともに教師像に適う教員の養成の実現を目指す。

また、文学部としては、教職課程科目担当教員は、全体の半数を超える程度(56.5%)であるため、教員養成の理念、教職課程の目的・目標などについて、教員間でのさらに徹底した周知、共有をはじめ、今後、学部一体となった教員養成体制の構築が必要と考える。これらの課題に対処すべく、具体的には、教職員向けとして、教職課程に特化したテーマを掲げて、教職員のFD・SD活動の企画などを検討している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 1-1-1 : 創価大学 HP 「建学の精神」 <https://www.soka.ac.jp/about/intro/spirit/>
- ・ 1-1-2 : 創価大学教職キャリアセンターHP 「教員養成の理念」 <https://www.soka.ac.jp/educareer/about/policy/>
- ・ 1-1-3 : 創価大学教職キャリアセンターHP 「文学部の教員養成理念」 https://www.soka.ac.jp/files/ja/20170416_002615.pdf

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

文学部では、教職課程の運営は、教職キャリアセンターと学部長、副学部長、事務長、副主任、学部の教職課程運営委員(教職課程を有する学部教授会で選出される委員)との連携を柱として行われている。さらに文学部では、学部委員会の中に、文学部教職委員会を設置し、学部長を委員長、副学部長を副委員長とし、国語、社会(高等学校は地理歴史・公民)、英語の教職科目を担当する教員の中からそれぞれ3~4名ずつ、事務長、副主任を構成員とする体制で運営を行っている。全学教職課程運営委員会が教職キャリアセンターを主体として定期的開催され、教職課程の審議・決定事項などを、教職課程運営委員が教授会で報告し、周知、共有している。審議・決定事項により、文学部教職委員会の各教科の委員が、他の関係教員と連携をとり、任務にあたる組織体制をとっている。このことにより、各教科そして学部全体の状況を把握できるよう図っている。

〔優れた取組〕

文学部の教職課程の組織体制により、授業や学部の行事などにおいて、文学部が目標とする教員を養成するために、教職員で教職課程の学生の推薦や、情報共有を行い、教職課程の学生の状況を把握することが可能である。さらに、教職課程ガイダンスや、各種対策講座、基準項目 2-2 で述べる「文学部教職生大会」参加への押し出しなど、学部の組織体制を用いて、周知、徹底することができる。

〔改善の方向性・課題〕

教職キャリアセンターと学部間の連携の強化および教職キャリアセンター、教職課程学生、文学部教員間での状況や情報のさらなる共有が必要であると考え。制度上の変更や教職課程の方針などは、教職課程運営委員会での審議事項が教授会で報告され教員間で共有できる。しかしながら、学生の状況や取り組みなどについての情報共有の強化が必要である。個々の学生の状況は、本学の学習支援ポータルサイトの学生情報照会などからも把握することができるが、教職課程学生独自のもの、例えば、学校インターンシップや介護等体験の参加状況、「履修カルテ」の内容と学生の成長の度合い、教職キャリアセンターで

の個別相談内容や教職に関する対策講座の実施、参加状況などの情報も把握できる可視化システムの構築がなされ、教職キャリアセンターと文学部関係教員の間で共有がなされ、学生の状況に合わせたきめ細かい指導に生かしていく必要がある。同時に、文学部の教職課程の組織体制のさらなる活性化と各教員の役割の明確化も必要であるとする。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 1 - 2 - 1 : 創価大学 HP 「PLAS 学習支援ポータルサイト」 <https://plas.soka.ac.jp/csp/plas/login.csp>
- ・ 1 - 2 - 2 : 創価大学教職キャリアセンターHP 「教職キャリアセンター相談室」 <https://www.soka.ac.jp/educareer/about/facility/counseling/>

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

教職キャリアセンターホームページの教職関連情報において、学部で取得可能な教員免許一覧、学部の教員養成の理念、学部の教員養成課程、教員採用試験合格者数などの情報を公開している。本学が発行する受験生向けの『キャンパスガイド』では、文学部で取得できる各種教員免許一覧と文学部を卒業した先輩教員や採用試験合格者との交流会の実施など教職課程の支援体制について掲載している。文学部新生ガイダンスで配布される『文学部での学び方』の教職免許に関係するメジャーの履修モデルの中で、取得可能な教員免許、教職課程に関係するメジャーの科目、教職課程の学生のサポートなどについて記述している。さらに、履修に関しては、各メジャーのメジャー責任者によるビデオ説明も学部ホームページから学生がアクセスできるようにしている。『文学部の学び方』および本学の履修要項をもとに新年度の学部履修相談会を数日間にわたり開催し、学部長、副学部長、学部コーディネーター、初年次セミナー担当教員の体制で、教職課程科目の履修方法も含めた指導を行っている。その他、新生ガイダンスにおいて、教職キャリアセンター主催の教職課程ガイダンスへの参加を呼び掛けている。

〔優れた取組〕

本学教職キャリアセンター相談室では、校長経験者など経験豊かな講師による個別相談、教育実習における学習指導案作成相談、教員採用試験相談などを行っている。さらに、同相談室では、教員採用試験に向けた論作文・面接試験対策の講座も開催している。学部内の教職課程科目担当教員を中心に、これらの機会を活用するよう学生に呼び掛けをしている。

〔改善の方向性・課題〕

今後の取り組みとして、オープンキャンパスを活用して、教職課程コーナーなどを設け、現役教職課程学生や卒業生教員の協力を得て、受験生および保護者の方々と懇談などを行うことも検討したい。

教職キャリアセンターが提供する教職課程および教職に就くための各種情報やサービスを学部として十分に把握し、学生に確実に伝え、さらに活用してもらう工夫が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 2-1-1 : 教職キャリアセンターHP 「教職関連情報」 <https://www.soka.ac.jp/education/reer/about/>
- ・ 2-1-2 : *Soka University Campus Guide 2023*. 創価大学アドミッションズセンター.
- ・ 2-1-3 : 『文学部での学び方』 2023. 創価大学文学部.
- ・ 2-1-4 : 文学部 HP <https://www.soka.ac.jp/letters/>

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

文学部は、教職課程の学生の支援として、学部長、副学部長、学部教職委員会委員を中心に企画を行い、「文学部教職生大会」を年2回開催している。中学校、高等学校の国語科、社会科(高等学校は地理歴史・公民)、英語科の教員採用試験合格者に登壇を依頼し、合格体験談として、教職を目指した理由、教員採用試験の勉強対策などについて幅広く、後輩学生のために報告してもらっている。さらに、文学部を卒業した中学校、高等学校の各教科の現役教員や教員経験者を招き、教育現場での取り組みを報告してもらい質問会や交流会を行っている。

〔優れた取組〕

2024年度からは、「文学部なんでも相談室」を授業期間中に週1回開催して、文学部教員や先輩ボランティア学生に、学業や学生生活について広く相談できる場を設け、教職課程学生間の交流やサポートも行っていく予定である。

〔改善の方向性・課題〕

「文学部教職生大会」は、学生からの評判もよい。より有意義なものにするためには、学生が集まりやすいように開催時期の再検討、教職課程学生のニーズや段階に合わせた卒業生現役教員との懇談会の設定など検討していく必要がある。さらに、教職生大会などを機会に、学生の学校インターンシップや学校ボランティアなどへの参加に対するモチベーションを高め、教員採用試験情報の入手や必要な相談をするために教職キャリアセンター相談室へ学生をつなぐことができる指導の流れを作る必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 2-2-1 : 文学部 HP <https://www.soka.ac.jp/letters/>

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

文学部では、学部が提供する文学部の多彩なカリキュラムの中から科目を履修することにより、各教科の深い専門力と幅広い学識を身に着けることができることを特徴としている。文学部は、国際理解・異文化コミュニケーション系、人文学・文化創造系、社会理解・平和創造系の3つの領域に11メジャー・1専修をもつ。学生は、特定のメジャーに所属しながらも、他の領域やメジャーの科目を履修することができる。学生は、免許取得のために、各教科について指定された教職課程科目を履修するが、文学部では、教職課程科目以外に関連科目を履修して、科目の知識と理解を広げ、深めることを推奨している。さらに、アクティブ・ラーニングを取り入れた多くの授業を提供しており、協働型のスタイルで学生どうし、そして教員と学生が一体となって学ぶことができる。そのような取り組みの中で、学生は、教師として必要なリーダーシップの取り方や、協調性や社会性も学んでいくことができる。

〔優れた取組〕

文学部は多彩なカリキュラムであるからこそ、学生がどの科目を選択するとよいか迷う可能性もある。そのため、国語、社会、地理歴史、公民、英語それぞれの教科について、各学年における到達目標を明記し、その中で、具体的にどの科目を履修するとよいか、教員としてのどのような技能や力を身に着けるとよいかについての目安も示している。これらは、文学部教員養成理念とともに教職キャリアセンターのホームページで公開している。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程科目間の連携や評価方法の共有など、改善を検討する余地がある。2026年度から新しい学部カリキュラムが開始に向けて、教職課程科目の配置やバランスも含め、コアカリキュラムに照らして、検討していく予定である。さらに、教職課程学生が教職科目とその他の科目を履修しやすいような時間割の組み方の工夫と改善も必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 3 - 1 - 1 : 『履修要項 2023 年度入学生用』 2023. 創価大学. https://plas.soka.ac.jp/csp/plas/files/manual/risyu/risyu_youkou2023.pdf
- ・ 3 - 1 - 2 : 文学部 HP <https://www.soka.ac.jp/letters/>
- ・ 3 - 1 - 3 : 教職キャリアセンターHP <https://www.soka.ac.jp/educareer/>

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携**〔現状〕**

教職キャリアセンターでは、教育実習や介護等体験以外にも、八王子市・立川市の公立小中学校、八王子市などの私立幼稚園における学校インターンシップや、学校ボランティアなどの制度を設けている。文学部は、学生が、より早い段階で、教育現場を体験し、教員としての適性判断もできるように積極的に学生の参加を促している。

〔優れた取組〕

文学部には、教職課程学生用に特化した地域連携活動はないが、文学部学生は、地元八王子の伝統文化を伝承する様々なイベントにボランティアや学生スタッフとして参加している。学生の自主的な参加や教員からの推薦には、教職課程の学生も多く含まれている。

〔改善の方向性・課題〕

学生の学校インターンシップや学校ボランティア活動など教職キャリアセンターが学生の世話をしてくれている。今後さらに教職キャリアセンターと連携して、学生の参加後の振り返りを含め、個々の学生に応じた指導のためにも学生の活動状況の把握が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 3-2-1 : 創価大学教職キャリアセンターHP「学校インターンシップ」<http://www.soka.ac.jp/educareer/student/intern/>

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

文学部としては、3つの基準領域における自己点検を踏まえて、教職課程が適切に運営されていると評価する。また、全学の教職課程運営委員会や教職キャリアセンターと密接に情報を共有しながら、学部としての教職課程の学生育成を行っている。

近年における全国的な教職課程志願者減の影響を受けつつも、中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」を踏まえて、新しい時代に応じられる教員養成を目指し、教員免許状取得学生数を着実に増やしていきたい。そして今後も、大学・学部の改革を踏まえつつ、文学部としても教員養成課程の不断の改革を心がけていく方針である。

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

「全学自己点検評価委員会」に設置された「教職課程評価分科会」が開催する分科会で教職課程をもつ各学部の「自己点検評価報告書」の作成へ向けての取り組みが発表された。その発表を受け、文学部では、教授会において全教員に作成とその意義について報告した。報告書作成体制として、学部長、副学部長、教職課程評価分科会委員および国語、社会（高等学校は地理歴史・公民）、英語の教職課程科目を担当する教員から1名ずつ選出し、報告事項について、現状や意見を集めた。報告書原案を学部長、副学部長、教職課程評価分科会委員で作成し、教職キャリアセンターに提出。

V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人 創価大学					
大学・学部名 創価大学 文学部					
学科名 人間学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					388名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					321名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					25名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					10名
⑤ のうち、正規採用者数					8名
④ のうち、臨時的任用者数					2名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	30名	13名	2名	1名	
相談員・支援員など専門職員数 0名					

令和 5 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

令和 6 年 3 月

創価大学理工学部

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	9
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	12
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	13
V	現況基礎データ一覧	14

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：創価大学理工学部
- (2) 所在地：東京都八王子市丹木町 1-236
- (3) 学生数及び教員数

(令和5年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 122 名／学部全体 708 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）29 名／学部全体 41 名

2 特色

.....

理工学部 2 学科(情報システム工学科, 共生創造理工学科) では, 本学の建学の精神に基づいて, 理工学の基礎から応用までの幅広い学問分野を学ぶことによって, 地域社会・地球社会の抱える課題に向き合い, 人類の幸福と世界の平和を実現する創造的人間の育成を目指している。このために, (1) 科学と技術を基盤とする知力, (2) 未来を開拓する創造性, (3) 価値観・理念の多様性に基づく協働力を培う教育に取り組んでいる。この精神で, 理工学部教職課程は, 人間主義に徹し, 社会に必要な理工学の広い視野の専門性を活かしながら民衆の幸福に貢献できる教員の養成を目標とする。教育原理, 教育心理, 道徳観の知識と技能を磨き, 数学・情報・理科の教科指導法および教育現場で要求される実践的な教育技法などを学年進行で系統学習する。教職課程の理念とこれらの教科の免許取得方法・科目一覧は「教職課程ガイド」として教職課程の履修生に配布されている。.....

.....

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

理工学部 2 学科（情報システム工学科，共生創造理工学科）の間で教職課程履修生の割合には差があり，専門科目群も異なるが，両学科ともに，履修生が科学と技術の健全な価値を提示し，民衆の幸福に貢献するために進取の精神で学問に取り組むように教育することを教職員の間で共通理解している。年度によって多少の差はあるものの両学科ではほぼ一定数の学生が教職課程を履修している。教科情報は極めて少ないが，数学・理科では公立・私立の中学校・高等学校で教職に就く卒業生を輩出している。このような進路実績を向上するサポート体制だけでなく，昨今の教育現場の抱える難題に真摯に立ち向かう力量のある教員を育成することが最大の目標である。 ……………

〔優れた取組〕

理工学部では，教職課程の学生を支援するために理数系中高教員養成プログラムを設けている。情報システム工学科では，教員採用試験（数学）の合格者との懇談会等を通じて試験対策のほかにも生徒指導上のアイデアを交換する取組を行なっている。共生創造理工学科では，1 年次から中学校の実験教室等の活動を通じて理科の教育指導の実践力を培い，教員採用試験合格者との懇談も含め教員採用試験の対策にも取り組んでいる。 ……………

〔改善の方向性・課題〕

教職課程の履修生の中にも，一定の割合で教職以外の職種を希望する学生もいる。このため，教職科目に取り組む意欲に差が生じる。他方，一般の職業を経験してから教職に就くという将来設計を考えている履修生もいる。前者に対して教職は

安易な姿勢で就ける職業ではないことを示唆し、後者に対して広い視野で社会と学校との関わりが学べるように指導することが肝要である。……………

<根拠となる資料・データ等>

・資料 1-1-1 : 創価大学教職課程ガイド 2023 年 pp.1-8, pp.16-18

・資料 1-1-2 : 創価大学キャンパスガイド 2024

・データ :

……………

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

理工学部内には、教職課程の履修生に対する業務を行う部署はないが、本学には教職キャリアセンターが設置され、全学の教職課程の履修生に対するサポート体制が整っている。教職課程ガイダンス、教育実習校との連携、教員採用試験に関する情報伝達等が円滑に進行するように配慮されている。

理工学部では、3年次に希望分野に応じてケーススタディを履修する際に、教職をめざす学生にも対応できる研究室があり、数学または理科教育に関する実践的な内容を学ぶことができる。……………

〔優れた取組〕

情報システム工学科は、理学部数学科、教育学部数学専攻とちがって、情報系を中心に幅広い分野の教員が各授業科目を担当し、3年次から研究室で学生を受け入れる。数学の教員を目指す学生は、数学以外の情報の科目群も履修するので、数学の活用力を培い、情報技術を身につけた新しいタイプの数学の教員を養成できる。他方、情報の教員を目指す学生は、情報系以外の数学の科目群も履修するので、数学力の高い情報の教員を養成できる。……………

共生創造理工学科では、理科教職に必要な生物学実験、化学実験、物理学実験、地球科学実験を履修することにより、教科書で学ぶ单元について実験を通して学

ぶことができる。その上で、学科に設置されている3つの専門領域である応用化学、生命科学、環境システムに関する実験科目を履修することができ、4年次には卒業研究を行うことで、より専門的な研究に触れることができる。さらに、理工学研究科へ進学することで、さらなる専門知識に加えて、深い洞察力を持つ理科教員を養成することができる。……………

〔改善の方向性・課題〕

昨今、小学校の算数・理科でも専科の教員が必要になっている。理工学部の現状では、小学校の算数・理科の教育に対応できないため、卒業後、本学の教職大学院に進学して小学校の教員免許を取得する事例が増えている。今後も教職大学院との連携を深めて、理工学部と相互に協力し、小中高の教員免許を合わせ持つ多角的な教員を養成する方策を検討することが必要である。……………

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：教職課程ガイド 2023 pp.16-17
- ・資料1-2-2：
- ・データ：

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

理工学部では、教職希望の入学者を確保するために学部のホームページやキャンパスガイド、オープンキャンパスにおいて、本学部で中高の数学・情報・理科の教員免許の取得が可能であり、さまざまな支援を行っていることを伝えている。

また、全学的な取り組みであるが、教職を担う学生を育成するための指標として、1年次から面談を行い、教職課程履修を継続するための指針としてのGPA基準を提示し、GPA基準を満たすべく継続した学習をすることを通して教職を担うべき能力を確認・育成している。

情報システム工学科では、中学校・高等学校数学・高等学校情報の教員免許が取得できるが、学科として教員養成を主な目的としているわけではない。入学前に情報システム工学科でこれらの教科の教員免許が取得できることを知り、情報システム工学科を第一志望とする強い動機づけになっている入学者が少なくない。このような教職課程の履修生は教職に対する目的意識が高く、教員採用試験を受験し、卒業後教職に就く事例が多い。

逆に共生では、入学時の教員志望者数に対して、実際に教職に就く学生は半数程度かそれ以下であり、その割合は高いとは言えない。「履修科目数が多く授業負担が大きすぎる」、「教職への意欲低下」などが原因であることが多いため、1年次から教職課程の履修生の横の繋がり、縦の繋がりを作り、子供との楽しいイベントへの参加を促して、教職への意欲向上に努めている。また、2023年カリキュラムから卒業要件の見直しを行うことで、教職課程を志望する学生の負担を軽減するように配慮している。

〔優れた取組〕

情報システム工学科で教職課程の履修者を育成するための科目、セミナー等を

設けているわけではないが、3年次のケーススタディ、4年次の演習でどの分野でも自ら主体的に判断し、課題に取り組み、プレゼンテーション技法を磨く機会が多い。このため、教職課程の履修生が数学教育以外の研究に取り組んでも、教員としての資質を向上させることができる。見方を変えると、結果として、数学だけでなく周辺分野の素養を兼ね備えた教員を育成する取組になっている。大学入学前のオープンキャンパスの学科説明会では、情報システム工学科で数学・情報の教員免許の取得が可能であり、情報技術にも優れた数学の教員を輩出している実績を紹介している。

大学の教職施設（教職キャリアセンター、教職自習室）のほかに、理工学部でも研究室によっては学生自習室を利用して教職志望者どうしで模擬授業を講評し合うことができる。特に、数学教育法で発表する準備、教育実習前の練習、教員採用試験の模擬授業対策等で役立っている。

共生創造理工学科では、理科教職の学生が3つのイベントの企画運営・スタッフとしての参加を促している。オープンキャンパスにおける子供向けの「わくわく実験教室」、八王子市教育委員会と東京八王子プロバスクラブが主催の八王子「宇宙の学校」のスタッフ、中学校での「苦手分野の理科実験教室」の企画運営である。「わくわく実験教室」では、1年生の授業で理科教職がグループで考案した実験を子供達と楽しむことで、理科の楽しさ、子供に教えることの楽しさ、実験の準備やプレゼンテーションなど実践的な技術の習得を目指している。八王子「宇宙の学校」では、複数の親子を相手に実験内容を伝えたり、うまくいかないところをサポートしたりすることを通して、保護者目線、子供目線、両方の視点を養うことができる。「苦手分野の理科実験教室」では、教育実習前の3年生が中心となって、2時間分の講義と実験の企画を半年かけて行っている。1年生、2年生もサポートスタッフとして参加する。実験内容は、理科嫌いになるきっかけとなりやすい分野に絞り、中学校の教科書に沿った内容としているので、教育実習や実際の教育現場でも役立つ。

.....

〔改善の方向性・課題〕

情報システム工学科で教職課程の履修者が少人数である年度には、教職志望者どうして切磋琢磨する機会がやや少ない。可能な限り地域の中学校で学校インターンシップまたは学校ボランティアに参加するように促して、現場の教職員からアドバイスを受ける機会を増やすことを検討する必要がある。

共生創造理工学科では、現状でも記したが、学年が上がるにつれて教職から離れていく学生が多いので、現役理科教員から教職の魅力について話してもらう機会を設けるなど教職の魅力に関する情報について早い段階から得られる環境を提供する必要がある。

.....

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 : 創価大学教職課程ガイド 2023 pp.43-45
 - ・資料 2-1-2 :
 - ・データ :
-

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

情報システム工学科では、中学校・高等学校で優れた実務経験のある現職および退職教員を、教職に関する科目(数学教育法, 教職実践演習等)の非常勤講師として採用している。教職志望者に対して、教科書では学べない数学教育の具体的な技法, 現場の実態等を伝えている。

共生創造理工学科では、1年生の終わりと3年生の9月に教員採用試験の合格者との懇談会を開いており、採用試験までの勉強の流れなどについて教えてもら

う機会を設けている。

〔優れた取組〕

情報システム工学科では、このような取組によって現場に直接対応し得る実践力を培うことができる。実際に、数学の教具の作成等を通じて単なる座学を超えた教育力を備えるように教員養成を進めている。オープンキャンパスの際に、情報システム工学科の卒業生の中から現職の教員を招いて、現場の事例、採用試験対策に関するアドバイスを受ける機会を設けている。

共生創造理工学科では、卒業生の現職理科教員との懇談会を年に1回、開催しており、現場の状況や教員採用試験などについて、早くから情報を得られる機会を設けている。

〔改善の方向性・課題〕

4年次の教育実習の時期が春学期の中間であるため、専門科目等を履修中の学生には、卒業単位をみたすための負担がやや重い。卒業研究を選択科目として担当しているが、演習は必修であり、研究の内容によっては研究室内の作業時間を要するため、その内容・進捗等が教職課程の履修者にも無理のないように検討することが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1 : 創価大学シラバス
- ・資料 2-2-2 :
- ・データ :

.....

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

教務課と教職キャリアセンターが連携して、各学科の科目編成と整合するように教職課程ガイダンス、時間割編成等を円滑に進めている。理工学部では、教務委員、教職課程運営委員を中心に、教員免許取得に必要な教科に関する科目の配当を吟味し、それらの科目の担当教員が退職した場合の対処についても十分検討している。……………

〔優れた取組〕

情報システム工学科では、教職課程の学生を支援するために設けている理数系中高教員養成プログラムを科目の一部として時間割に組み込んでいる。このプログラムによって 1, 2 年次から数学教育の実践的な技法、知識等を吸収できるように配慮している。

共生創造理工学科においても情報システム工学科と同様に理科教員養成プログラムを科目の一部として時間割に組み込んでいる。例えば、教育実習前の 3 年次の授業では、中学校で 2 時間の「苦手分野の理科実験教室」を開催するための企画・運営を行い、理科教育の実践的なトレーニングの機会を提供している。また、教職課程の履修生は、学科の専門科目のほかに教職に関する科目を履修するため、卒業単位を大きく超える単位を取得する必要がある。2023 年度入学生からは、卒業に必要な自由科目を 18 単位から 23 単位に変更することによって、以前よりも多くの教職に関する科目の単位を卒業単位として認めることが可能となった。……………

〔改善の方向性・課題〕

2 年次から教職課程を履修する学生は、専門科目が増える学年に教職科目が加わるため、教職を志したにもかかわらず自習のための時間を確保しにくい。このような学生でも無理なく履修計画を立てることができるような指針を示すような施

策が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

・資料3-1-1：創価大学教職課程ガイド 2023 pp.16-17

・資料3-1-2：

・データ：

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

情報システム工学科では、中学校・高等学校の現職および退職教員を非常勤講師として採用し、数学教育法の科目を通じて、数学教育の理論と実践を融合しながら指導している。模擬授業も取り入れ、3週間の教育実習では培えない授業力を向上することを目指している。教職課程の履修生の一部は、自らの地域で学校インターンシップまたは学校ボランティアとして中学生の数学の学習支援に携わっている。

共生創造理工学科では、情報システム工学科と同様に地域での学校インターンシップや学校ボランティアに携わることを推奨し、先にも記載したように、八王子「宇宙の学校」および中学校での「苦手分野の理科実験教室」、地域の子どもたちが多く参加するオープンキャンパスの「わくわく実験教室」での活動等、地域と連携した活動を通して実践的指導力の育成を目指している。

〔優れた取組〕

本学の系列校の卒業生は、実情を把握しているため、母校で学校インターンシップまたは学校ボランティアに取り組みやすい。恩師からも科目の教育法だけでなく、生徒への向き合い方等を伝授される。この経験が教職への魅力を高め、自分から問題意識を持ち、教育について発案する契機になっている。

.....
〔改善の方向性・課題〕

公立と私立では、所在地の地理的な環境，中高一貫かどうか，校内の生徒間の学力差，施設の整備等に大きなちがいがあある。公立に採用される場合を想定して，どのような特徴のある学校でも対応できる幅広い教員を育成することが肝要である。

.....
.....

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：創価大学教職課程ガイド 2023 pp.41-42
 - ・資料3-2-2：創価大学キャンパスガイド 2024
 - ・データ :
-

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

理工学部の教職課程の目標は、単に数学・情報・理科の教科の教員免許という資格を取得することではなく、本学の建学の精神に基づいた使命感の強い教育者を社会に輩出することである。人間教育の最高学府であること、新しい大文化建設の揺籃であること、人類の平和を守る要塞であることを掲げた本学の理念のもとに、教科の知識を伝授することに留まらず、広い視野に立って人を育てる教員としての仕事を遂行できる人材を養成することに取り組んでいる。その具体的な取組の事例はつぎのとおりである。

情報システム工学科では、プログラミング、計算機の基本設計・設計思想、数値解析、人工知能等の授業科目を選択して、数学の教員免許の教科に関する科目として履修することができる。数学の枠を超えたカリキュラムは、情報化社会で未来を生きることになる中高生に対して、情報技術の発達に伴って大きく変化する社会規範・価値観をも含めた数学教育を実践できる教員の育成に結びついている。情報の教員免許の取得に関しても、単なる情報技術に留まらず知的財産法、意思決定支援等のあらゆる産業社会で重要な役割を担う授業科目を履修することができる。情報処理(プログラミング言語、数値解析、情報理論等)に関連する数学のカリキュラムは、従来の演習問題解決型ではなく、データから発見する概念形成型の数学力を情報化社会に活かすような情報教育を実践できる教員の育成に結びついている。

共生創造理工学科では、データサイエンスをベースに応用化学、生命科学、環境システムの3つの領域を中心に科学を広く学びながら、理科の教員免許を取得することができる。また、地球市民としてSDG's達成に貢献する人材育成にも力を入れており、科学の社会貢献について考える力を持った理科の教員の育成を目指している。そして、様々な学外活動に参加することにより、単なる知識ではない実践力の伴った理科の

教員の育成に結びついている。

.....

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

理工学部の教職課程運営委員が教職課程自己点検・評価報告書の原案を作成し、理工学部長、情報システム工学科長、共生創造理工学科長とともに検討した上で原案を確定した。その原案を教職キャリアセンターに提出して内容を確認された結果、確定した。

.....

V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人創価大学					
大学・学部名 創価大学・理工学部					
学科・コース名（必要な場合） 情報システム工学科，共生創造理工学科					
1 卒業者数，教員免許状取得者数，教員就職者数等					
① 前年度卒業者数					175名
② ①のうち，就職者数 (企業，公務員等を含む)					90名
③ ①のうち，教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					22名
④ ②のうち，教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)					10名
⑤ のうち，正規採用者数					8名
⑥ のうち，臨時的任用者数					2名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	23名	9名	0名	9名	
相談員・支援員など専門職員数					